

白神山地周辺における森林環境教育推進の取組

藤里森林センター ○石川 敏
松橋 良之

1 はじめに

昨年9月に閣議決定された新たな「森林・林業基本計画」では、これからの森林づくりに当たり、「森林の有する多面的機能や木材利用の意義等に対する理解と関心を深めるため、子どもたちをはじめ広く国民に森林環境教育の機会を提供していく」という森林環境教育推進の方向性が示されました。

具体の推進方策として、教育・環境・地域振興等分野との連携による森林の重要性のPRや、国有林による活動フィールドの提供・指導者の派遣、インターネットを活用した情報の提供等を掲げています。

また、平成14年度から全国の小中学校で実施している「総合的な学習の時間」では、子どもたちの「生きる力」を育む体験学習の場として広く森林が活用されるなど、引き続き森林環境教育の一層の充実が求められています。

こうした中、白神山地周辺においても、様々な機関で工夫を凝らした活動が展開されていますが、今回、当センターにおいて、これまで以上に率先して、より積極的な森林環境教育の推進を図るため取り組んだ事例を報告します。

2 これまでの森林環境教育の取組

当センターでは、白神山地世界遺産地域のうち、秋田県側の遺産地域とその周辺地域をフィールドに、森林教室や体験学習に取り組んでいます。

主な実施場所は、岳岱自然観察教育林やニツ森自然観察教育林、太良峡風景林など、レクリエーションの森が主体で、ブナの自然林や天然秋田スギ等を教材に取り組んでいます。

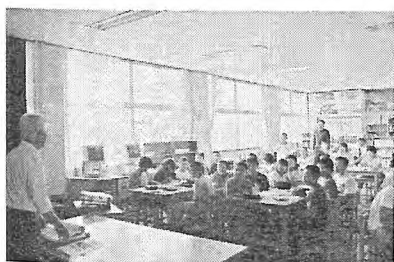


写真1

森林教室（写真1）では、日本の森林・林業の現状や森林の働き・役割のほか、子どもたちにとって一番身近な世界遺産である「白神山地」の概要や保全管理の取り組み、ブナ林の特性など白神山地ならではのメニューを加え実施しています。

体験学習（写真2）では、直接森林とふれあい、五感をフルに使いながら、森林や動植物の不思議などを学習しています。

こうした取り組みは小中学校や教育委員会等からの依頼に基づき実施しているのがほとんどであり、センター側から積極的に働きかけをして行ってきたというものではなくどちらかといえば「受け身」の対応による取り組みでした。

このため、「受け身」から一歩進んで「攻め」の取り組みを展開すべく、今回取り組んだ5つの事例を紹介します。

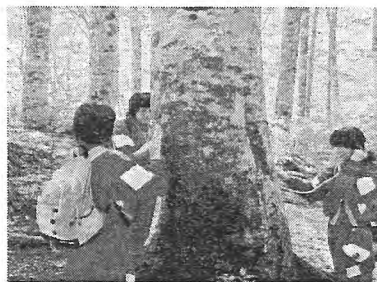


写真2

3 森林環境教育推進の取組事例

(1) 森林教室用プログラムの作成 (図-1)

最初に手がけたのが、森林教室用プログラムの作成です。

昨年2月に、当センターで実施可能な森林教室や体験林業、研修会等の内容を簡易なプログラムにまとめ、学習の内容ごとに、目的、対象者、実施場所や実施時間、基本的なスケジュールなどを分かりやすく整理しました。

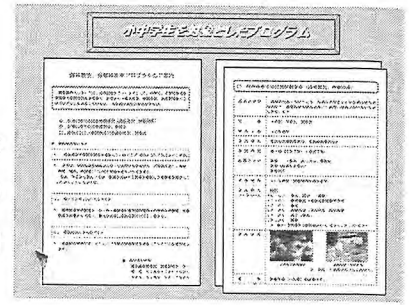


図-1

(2) 小中学校への働きかけ (図-2)

作成した森林教室用のプログラムを、白神山地周辺で、当センターへの日帰りでの森林教室の実施が可能と見込まれる秋田県北部の大館市、北秋田市、能代市、北秋田郡、山本郡内の全ての小中学校(小学校74校・中学校29校、計103校)へ案内状とパワーポイントで作成した森林教室用のスライド、これに、リーフレット2種類を加え、2月末に校長先生あてに送付しました。

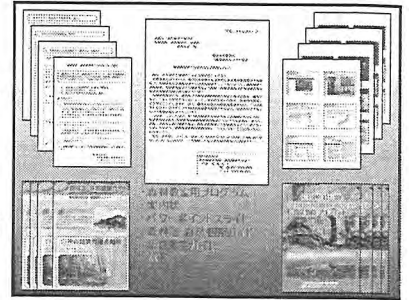


図-2

(3) インターネットによる情報発信

さらに、当センターのホームページに、「森林教室等のご案内」というコーナーを新しく設け、小中学校へ送付した森林教室用のプログラムを掲載しました。

これは、2月末から3月にかけて実施した当センターのホームページのリニューアルに併せて掲載したもので、プログラムのほか、森林教室等の申込みの方法や受講料の有無等についても一緒に掲載し、インターネットによるPRに努めました。

(4) 森林教室用のマニュアル作成 (図-3)

3月以降は、PRとは別に、講師役となる職員の資質向上を図るため、森林教室用のマニュアル作成に取り組みました。

これまで森林教室等の講師役は特定の職員に偏りがちであったことから、センターの全職員が対応でき、児童や生徒達に内容をきちんと理解してもらえるよう、基本となる職員用のマニュアルを整理しました。

内容は、「森林の役割・はたらき編」、「世界遺産白神山地の概要編」、「ブナの森編」の3つのジャンルに区分し、それぞれ1時間半程度の講義ができる内容としました。作成したマニュアルは早速、新年度から森林教室等で活用し、研修目的や対象者に応じた学習を実施するとともに、局管内の森林環境保全ふれあいセンターや森林技術センター等に配布するなど活用いただいています。

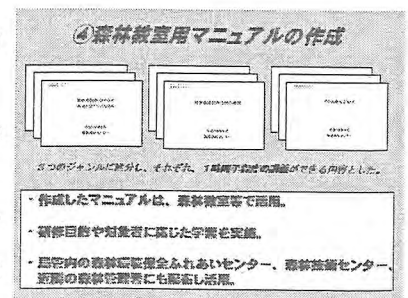


図-3

(5) 出前講座実施の案内

白神山地周辺における野外での森林教室等は、積雪の関係から5～11月の夏期間が主体で、冬季の活動停滞の解消が課題の一つとなっていました。

このため、年間を通じた活動ができるよう、こちらから学校等へ出向いて屋内で森林教室等を行う「出前講座」実施のPRを行いました。冬に入る前の11月に森林教室の働きかけと同様に、簡易なPR文書を作成し、周辺の7市町村の教育委員会へ案内状を送付するとともに、ホームページに掲載しました。

4 実施結果等

(1) 問い合わせ

こうした働きかけ、インターネットによる情報発信など、積極的なPRに取り組んだところ、3月中には小中学校から10数件の問い合わせがあり、「白神山地での体験学習は何月頃からできるのか」、「児童の移動用のバスを出してもらえるのか」、「費用はかかるのか」等の事前の相談もいただきました。

(2) 実施結果

4月以降、各小中学校から正式な依頼があり、今年度は全体で14の小・中・高校で森林環境教育を実施しました。(図-4)

平成15年度の実施が6校、16、17年度の実施がそれぞれ7校ずつでしたのでこれまでと比べ倍増となり、大幅アップとなりました。(図-5) また、課題であった冬期間の森林教室の開催も実現できました。

平成18年度の森林環境教育等実施校一覧			
小学校	大館市立	高田	小学校
	"	早口	小学校
	"	山瀬	小学校
	北秋田市立	馬場西	小学校
	"	浦田	小学校
	能代市立	仁館	小学校
	"	浮城第3	小学校
	藤里町立	藤里	小学校
	"	米田	小学校
	秋田市立	築山	小学校
中学校	秋田市立	板	中学校
	由利本荘市立	本荘南	中学校
	八郎潟町立	八郎潟	中学校
高等学校	秋田県立	能代工業	高等学校

図-4

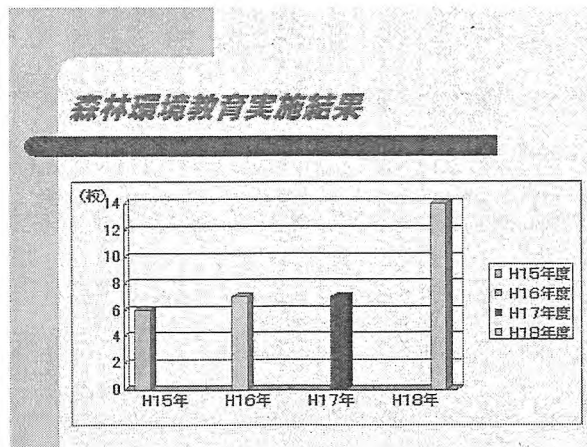


図-5

今年度実施のいくつかの事例を紹介します。

【事例1】小学5年生の出前講座の様子(写真3・4・5)

出前講座は、全体で5回実施しました。出前講座では、プロジェクターや、写真パネル、

木の標本などを使い、視覚中心の学習とし児童達があきないような工夫をしています。



写真3 森林教室の様子1

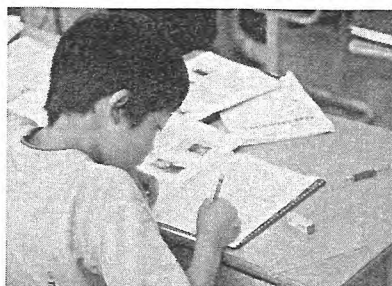


写真4 メモを取る児童

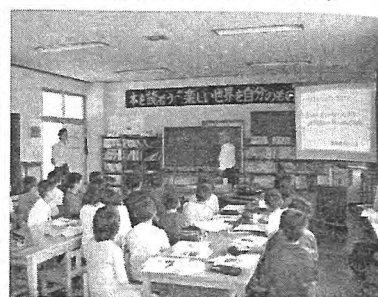


写真5 森林教室の様子2

【事例2】小学4年生の体験学習の様子

体験学習では、ブナやユキザサの実を食べたり（写真6）、湧き水を飲んだり（写真7）、カエルの観察をしたりと自然の中で生き生きと学習していました。この学習の様子は、地元新聞などでも紹介していただきました。（図-6）



写真6



写真7



図-6

【事例3】高校生の体験林業の様子（写真8・9）

体験林業では、間伐の意義や森林の保育の大切さなどを説明し、安全確保に留意しながら実施しました。

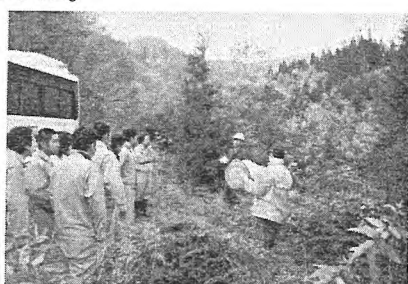


写真8 保育の大切さ説明



写真9 下刈り作業の様子

(3) 実施後のフォローアップ

森林環境教育では「事後学習」も重要な取り組みのひとつとなってきます。

1日だけの森林教室では、ともすれば半分遊び気分で終わってしまう場合もあります。体験したことを振り返り、その日だけの学習とならないよう、森林教室等の実施後には、

写真などを添えて児童達に手紙を送付するなどのフォローアップも行いました。

その結果、多くの児童達から感想文やお礼の手紙（図-7）をいただき、「調べ学習する」という一層の学習成果の向上につながったのではないかと思います。

また、森林教室等の開催の様子は、ホームページの「森林ガイド情報」で紹介し、広く情報を発信しています。

こうしたフォローアップが次年度以降も継続的に実現できるきっかけになればと考えています。

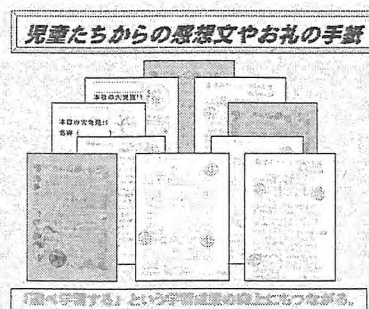


図-7

5 考察

- ・ 今回の「受け身」から「攻め」の取り組みにより、初めて当センターでの森林教室等を体験していただいた学校も多く、新規の掘り起こしにつながりました。
- ・ 参加いただいた児童・生徒や教職員に森林環境教育の意味や大切さ、身近な世界遺産の存在、森林センターの役割などをPRできました。
- ・ 今回対応した職員の資質向上にもつながり、スキルアップが図れたと考えています。
- ・ 新たな森林・林業基本計画の工程表では、施策毎に数値目標を示しており、森林環境教育については、平成27年度に体験学習等の受け入れ数を200万人日としています。小中学校の参加を増やし、広がりを確保していく上で、今回の取り組みは、どの地域においても、どの現場においても実践可能な取り組みの一つであると考えており、各署等においても今後の取り組みの参考にしていただければと思います。

6 おわりに

当センターでは、白神山地周辺での様々な体験活動に関するニーズに応じていくため、今回の取り組みをさらに発展させ、今後も森林環境教育の積極的な推進に取り組んでいきたいと考えています。